

北方領土問題身近に

中標津中

ブーチン氏が復帰を決めたロシア大統領選で動き出した北方領土問題を、交流の大切さや地域との関わりの中で考える社会科の授業が、根室管内の中標津中で行われた。四島問題では根室市の関心が高いが、中標津町も新聞などで身近にとらえる取り組みが続いている。(大井一樹・北海道新聞NIE推進センター委員)

記事で知る交流の歴史



実践校
リポート

授業は、春の異動で根室市立落石中に転出した丹野聰教頭が前任の根室管内中標津中の教諭だった3月21日、同中2年B組(38人)などに対して行つた。授業は、わずか1時間だつたが、流れを4つに分割した。①北方領土返還の、町内の啓発看板を通じて返還運動のメッセージに気づき、ワークシートを使って記事から事実を読み取る中標津中の生徒たち

授業は、春の異動で根室市立落石中に転出した丹野聰教頭が前任の根室管内中標津中の教諭だった3月21日、同中2年B組(38人)などに対して行つた。授業は、わずか1時間だつたが、流れを4つに分割した。①北方領土返還の、町内の啓発看板を通じて返還運動のメッセージに気づき、ワークシートを使って記事から事実を読み取る中標津中の生徒たち

授業は、春の異動で根室市立落石中に転出した丹野聰教頭が前任の根室管内中標津中の教諭だった3月21日、同中2年B組(38人)などに対して行つた。授業は、わずか1時間だつたが、流れを4つに分割した。①北方領土返還の、町内の啓発看板を通じて返還運動のメッセージに気づき、ワークシートを使って記事から事実を読み取る中標津中の生徒たち

道内高校新聞

ナウ

1

春に卒業の3年生を含めて27人。昨年、局員は最多を更新した。30平方メートルほどの広さと4台のパソコンでは足りないことも。だが、本人たちの自由意思でこれだけの数が集まる、うらやましい活動だ。人気の秘密は、中学生向

い。インターネットなど電子メディアの普及で新聞・書籍などの活字媒体（メディア）から距離を置く「活字離れ」が進んでいる。大正末期から85年の歴史を刻んだ北大新聞が昨年11月で休刊。学校生活をカバーする高校新聞にも新しい波が押し寄せている。校内の動きを追い、生きる時代を考え、道内の高校新聞の現状を見た。



「少しでも面白いものを」と日々の学校の動きを取り、1階の新聞局室で執筆や打ち合わせをする局員たち

編集後記

○…全国学力調査をもとに地域の学力を検証する企画が道内各紙で増えている。読売、釧路、道新など問題を掘り下げ、学力格差の根っこを探る試み。職業体験に訪れた高校生の作文レベルの低さに企業側が当惑し、「必要な資格を取得してもらいたくともなかなかできない」と経営者が嘆く様子が釧路新聞に紹介されていた。

○…この点では、少なくとも新聞が一定の役割を果たせそうだ。読解や文章表現力を、新聞を読むことで培う。せめて中学校から習慣化できれば、先の事例のような現象は減らすこともできよう。

○…この春、中学校で学習指導要領が変わり、NIEへの期待が広がる。この際、先生にも保護者にもいま一度、新聞へ関心を向けてほしい。健全な競争と意欲の喚起で他者への関心も芽生えるのではないか。（大）

生徒の目線で新聞製作

インターネットなど電子メディアの普及で新聞・書籍などの活字媒体（メディア）から距離を置く「活字離れ」が進

む側になりたい」と読む側を刺激するらしい。併せて発行する通常号は年約30号。ほかスポーツなどの速報、入学・卒業式など特別号が計20号以上。いずれもB4判サイズ、全部で50号超で、ならずと週刊に近い発行回数だ。新谷雄

卒業生にいまの仕事などをたずねる「FINE（ファイン）発見」は顔写真つき。「なんでもお悩み相談室」は生徒の疑問に答える「ことばのキヤツチボール」だ。

広貴君。こつこつ取材する姿は二人三脚で見守った顧問の工藤幹男教諭のまぶたに焼き付いている。いまの原型をつくった「中興の祖」だが、北大から今春、社会へ巣立ち、「やつて良かつた」といまも感謝のことばを口にするという。

通常号の61号のトップで扱った「石狩单一学区への変更による地元東区の生徒半減」の記事は反響が大きかった。123号の自転車での通学マナーの記事も、行動が周囲からどう見られるかがわかる内容。

日本新聞協会は「新聞をヨム日（4月6日）」に合わせて、NIEのウェブサイト「教育に新聞を」をリニューアルした。

東日本大震災から1年を振り返り、高度な理数系教育に重点を置いた専門学科「コズモサイエンス科」の動向もしつかり追う。校舎の壁にぶつかった瀕死（ひ

んし）のフクロウを教職員がリレーで動物園へ運んだ「フクロウ激突」も扱った。「こんな話があるんだけど」と先生から顧問へ流れれる来る情報も。

「大上段に構え、あるべき論」で引っ張っていく活動は苦手」と工藤教諭。求められるのは「にぎやかな居室」だ。生徒の自由な発想を重視する姿勢は進学校ならではだが、「高校新聞なので何を取り上げ、どう向き合うかです」と同教諭。そこから発信される新聞は旺盛な知的好奇心

「新聞の基礎知識」「新学習指導要領とNIE」などをページも設け、各種資料や手書きの閲覧に便宜を図っている。

このほか、「NIEをもつと知る」のコーナーでは「新聞の基礎知識」「新学習指導要領とNIE」などを分かりやすく解説している。

サイトのアドレスはhttp://www.nie.jp/

お知らせ

協会サイトをリニューアル

1962年、札幌市東区に開校した市立高。普通科6、2年6形に創刊号。通常号が133号、速報号ほかは111号を数える。